

## 国語科訂正

A 1 日程

二 問二

〔設問〕 …Bは反対の意味の言葉を、Cは同じ意味の言葉を…

→ …bは反対の意味の言葉を、cは同じ意味の言葉を…

設問指示のアルファベットが、正しくは小文字でしたが、大文字になっていました。

110110年度

国

語

(A I 日程)

(解答はすべて解答用紙に記入しなさい)

11 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(設問の都合上、一部省略した部分があります。)

昔の学校はのんびりしていた。勉強をする生徒も少しはいたが、学校の授業の予習と復習くらい。定期試験の前になると、とにかく試験勉強に **A** の色を変えるくらいだった。

その代わり、体育のほうは、かなりしっかりした指導をした。私の出た中学校(旧制)は、少し変わっていたようで、ほかの学校でみんながやっていた野球を校則で禁じて、その代わりにサッカー(当時、蹴球)を校技とした。そのころ県下でサッカーをしている中学は少なかった。といってとくにすぐれていたわけではなかったが、毎年のように甲子園の全国大会に出場しては負け

5

ていた。  
それは一部の生徒のことだが、全校生徒に、長距離走をさせていた。一年生五キロ強、二、三年七キロ、四、五年は一〇キロ強のコースを、春秋、数十日ずつ、毎日、走る。そのため、朝からの授業を五分ずつ短縮、早めに授業を切り上げると、全校生徒が校庭に集合して、順次スタート。五十歳くらいの校長も生徒と同じでたちで走る。ほかの先生も走らないわけにはいかない。文字通り、全校ランニングである。知らない世間は子どもがかわいそうだと悪く言っただけ。生徒もブツブツ言ったが、問題ではない。めいめい、苦しい走りの中で何かを学んでいたらしい。卒業して十年もたつと、大変よい経験をさせてもらったように思い始める。さらに年老いると、人生におけるもつとも有益な訓練であつたように考える。教科の勉強なんかあとかたもなく忘れてしまつても、あと一キロくらいのところの苦しさは生々しくいつまでも思い返される。先生を追い越すときは、暴れもので通っているのが、軽く会釈をして追い越したりするのである。11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100 101 102 103 104 105 106 107 108 109 110 111 112 113 114 115 116 117 118 119 120 121 122 123 124 125 126 127 128 129 130 131 132 133 134 135 136 137 138 139 140 141 142 143 144 145 146 147 148 149 150 151 152 153 154 155 156 157 158 159 160 161 162 163 164 165 166 167 168 169 170 171 172 173 174 175 176 177 178 179 180 181 182 183 184 185 186 187 188 189 190 191 192 193 194 195 196 197 198 199 200 201 202 203 204 205 206 207 208 209 210 211 212 213 214 215 216 217 218 219 220 221 222 223 224 225 226 227 228 229 230 231 232 233 234 235 236 237 238 239 240 241 242 243 244 245 246 247 248 249 250 251 252 253 254 255 256 257 258 259 260 261 262 263 264 265 266 267 268 269 270 271 272 273 274 275 276 277 278 279 280 281 282 283 284 285 286 287 288 289 290 291 292 293 294 295 296 297 298 299 300 301 302 303 304 305 306 307 308 309 310 311 312 313 314 315 316 317 318 319 320 321 322 323 324 325 326 327 328 329 330 331 332 333 334 335 336 337 338 339 340 341 342 343 344 345 346 347 348 349 350 351 352 353 354 355 356 357 358 359 360 361 362 363 364 365 366 367 368 369 370 371 372 373 374 375 376 377 378 379 380 381 382 383 384 385 386 387 388 389 390 391 392 393 394 395 396 397 398 399 400 401 402 403 404 405 406 407 408 409 410 411 412 413 414 415 416 417 418 419 420 421 422 423 424 425 426 427 428 429 430 431 432 433 434 435 436 437 438 439 440 441 442 443 444 445 446 447 448 449 450 451 452 453 454 455 456 457 458 459 460 461 462 463 464 465 466 467 468 469 470 471 472 473 474 475 476 477 478 479 480 481 482 483 484 485 486 487 488 489 490 491 492 493 494 495 496 497 498 499 500 501 502 503 504 505 506 507 508 509 510 511 512 513 514 515 516 517 518 519 520 521 522 523 524 525 526 527 528 529 530 531 532 533 534 535 536 537 538 539 540 541 542 543 544 545 546 547 548 549 550 551 552 553 554 555 556 557 558 559 560 561 562 563 564 565 566 567 568 569 570 571 572 573 574 575 576 577 578 579 580 581 582 583 584 585 586 587 588 589 590 591 592 593 594 595 596 597 598 599 600 601 602 603 604 605 606 607 608 609 610 611 612 613 614 615 616 617 618 619 620 621 622 623 624 625 626 627 628 629 630 631 632 633 634 635 636 637 638 639 640 641 642 643 644 645 646 647 648 649 650 651 652 653 654 655 656 657 658 659 660 661 662 663 664 665 666 667 668 669 670 671 672 673 674 675 676 677 678 679 680 681 682 683 684 685 686 687 688 689 690 691 692 693 694 695 696 697 698 699 700 701 702 703 704 705 706 707 708 709 710 711 712 713 714 715 716 717 718 719 720 721 722 723 724 725 726 727 728 729 730 731 732 733 734 735 736 737 738 739 740 741 742 743 744 745 746 747 748 749 750 751 752 753 754 755 756 757 758 759 760 761 762 763 764 765 766 767 768 769 770 771 772 773 774 775 776 777 778 779 780 781 782 783 784 785 786 787 788 789 790 791 792 793 794 795 796 797 798 799 800 801 802 803 804 805 806 807 808 809 810 811 812 813 814 815 816 817 818 819 820 821 822 823 824 825 826 827 828 829 830 831 832 833 834 835 836 837 838 839 840 841 842 843 844 845 846 847 848 849 850 851 852 853 854 855 856 857 858 859 860 861 862 863 864 865 866 867 868 869 870 871 872 873 874 875 876 877 878 879 880 881 882 883 884 885 886 887 888 889 890 891 892 893 894 895 896 897 898 899 900 901 902 903 904 905 906 907 908 909 910 911 912 913 914 915 916 917 918 919 920 921 922 923 924 925 926 927 928 929 930 931 932 933 934 935 936 937 938 939 940 941 942 943 944 945 946 947 948 949 950 951 952 953 954 955 956 957 958 959 960 961 962 963 964 965 966 967 968 969 970 971 972 973 974 975 976 977 978 979 980 981 982 983 984 985 986 987 988 989 990 991 992 993 994 995 996 997 998 999 1000

10

それに引きかえまったく取り柄のない教室の授業だったが、私にはただひとつ例外がある。

15

中学三年のときに国語の教科書で生涯、影響を受けることになる文章に出会ったのだ。吉村冬彦(寺田寅彦)「科学者とあたま」である。それまで文章によつてこんなに **B** ゆきふられたことはなかった。先生が説明してくれたに違いないが、それは頭に残らない。文章そのものが、頭を強く刺激した。

寺田寅彦のエッセイ「科学者とあたま」はこういう文章で始まる。

私に親しいある老科学者がある日私に次のようなことを語って聞かせた。

20

「科学者になるには『あたま』がよくなくてはいけない」これは普通<sup>ふつう</sup>世人の口にする一つの命題である。これはある意味ではほんとうだと思われる。しかし、一方でまた『2』という命題も、ある意味ではやはりほんとうである。そうしてこの後のほうの命題は、それを指摘し解説する人が比較的に少数である」

25

私が初めて読んだのは中学校三年のときであつた。田舎<sup>いなか</sup>の学校で、生徒は教科書以外に本を読まなかつた。学校に名ばかりの図書室があつたけれども、書棚にあるのはせいぜい三、四百冊。それを借り出すものはほとんどなかつた。生徒は下調べに図書室を利用した。勉強<sup>べんきやう</sup>といへば予習復習で、上級生になると、受験の参考書を読む。およそ知的雰囲気<sup>ちてきふき</sup>というものが無い。いまからするとひどい状態であつたが、そのころはそんなことを考えることもなかつた。

「科学者とあたま」は、国語の教科書に出ていたのだが、ほかにもどういふ文章があつたか、まったく跡<sup>あと</sup>かたもなく忘れてしまった。しかし、この文章は片時も忘れたときはない。

30

もちろん、この文章がすぐ、わかつたわけではない。先生がどういふ説明をされたかも覚えていないが、なにか鋭いもので突きさされたような感じがした。珍しく、学校から帰つて、独りで、読み返した。それでもよくわからない。本文を離れ、ほかのことをしているときにも思い浮かべて反芻<sup>はんそう</sup>したことを覚えている。

だいたい「頭がいい」といふのがはつきりしない。中学生なら成績のいいのが頭のいいことになるが科学者は大人である。大人の頭のよさというものは見当もつかない。<sup>3</sup>「科学者とあたま」はどうして「科学者と頭」ではないのかまさか頭の字を知らないわけではあるまいに、どうして仮名にしたのかこれも読み返して、頭は目に見える頭で、あたまはその中側にある頭を指しているらしい、ということがわかつた。ちよつとした新しい考えであるように感じた。

35

頭とあたまの二つがあるというのは、そのころの田舎では大人たちははつきりしていなかつただろう。

40

そのあたまのよさを、このエッセイでは、正面から説明するのではなくて、たとえによつて明快にわからせてくれる。これは新鮮で、ものを考え、ものを説明するのに重要な方法であることを後年知るようになるが、若いときはただそれを鵜呑みにするだけだつた。

「所謂頭のいい人は、いわば4のようなものである」と言つて、秀才を4になぞらえる。たとえであり比喩<sup>ひよ</sup>で

ある。抽象的なことをわかりやすく説明するのに有効である。宗教の経典などに比喩が多く出てくるのは偶然ではない。心の中、頭の中のことは具体的な形を借りて説明するはかはない。有力な思考法のひとつだとしてよいであらう。

45

脚の速い人は、他人より先に人の行かないところへ着くことができる。その代わり、途中にある大事なことを見落とすおそれがある。頭の悪い脚ののろい人が、ずつと遅れてやつてきて、苦もなく、脚の速い人の見落としていつた宝を拾つていくことがある。

こつこつという言い方で、<sup>5</sup>頭の悪い人が頭のいい人に勝つことがあるのを納得させる。脚の速い人は、富士山の裾野まで来て、そこから頂上を眺めただけで、富士山の全体がわかつたやうなつもりになつて帰つてくる。富士山はやはり登つてみなくては十分にわからない。

50

頭のいい人は見通しがきくだけに、<sup>6</sup>前途の難関が予見できる。とつてい越えることができないとあきらめてしまいがちである。それに引きかえ、頭の悪い人は先が見えないだけに6で、難関にさしかかつても難所だと思わず進むから、それと気づかず、難所を乗り越えていくといふことがある――。

55

こつこつという文章を読んでいると、だんだん頭の悪いほうのすぐれた科学者になれるといふ常識に反する命題を受け入れることができるようになる。比喩の力である。

それとともに、自分はそれほど頭はよくないようだが、必ずしも望みがないわけではない。いわゆる頭の悪い人がりっぱな仕事をしているらしいことを感じて勇気を出すことができる。

比喩というのが単なる修辞上の手法ではなく思考の有力な方法であることを知ることになつて、自分でも、比喩的思考をするようになった。

60

ある有名な女性の作家が、「描写が大切である。比喩に逃げるのはいけない」と述べていると聞いてひどく反感を覚えた。比喩に逃げるのではなく、描写できないものは比喩を援用して表現するはかはない。新しい考えを伝えるには比喩はもつとも有効な手法である。小説家は勝手な作り話をするしか能力がない。未知、抽象などを相手にしないから比喩をバカにできる。

比喩はアナロジーである。アナロジーは数学では

65

$$a : b = c : x$$
という式の  $x$  を求めるのが比例である。  $x$  がとらえにくいとき、それと似通つた  $a$  と  $b$  をとらえる。それを見つければ、思いつければ、

ゃはおのずからはつきりする。この等式をつくるのには、比べるものを見つけなくてはならないから、比例は発見、解決の思考を含んでいると言つてよい。

比喩は、ア的なことをよりイ的な形へ移し、明らかにするものだが、それ自体がおもしろくなるのが特色である。ウ的なことをエで説明するのはつねに難解でわかりにくい。オ的なものへ転移させるといわば思考のドラマを展開する。それでおもしろくなる。

わかりやすいというのも、そのおもしろさと表裏をなしている。

「科学者とあたま」は、そのもつともよい見本である。それに親しんでいるうちに、自然に比喩的思考を身につけることができるようになる。

私自身、ものを考えるとき、アナロジ―表現によつていことが多いが、それは「科学者とあたま」の影響である。まわりを見渡してみても、比喩的思考をしている人は案外少ない。

知識は有用である。少ないより多いほうがよいとされるが、知識過多になるとおもしろくない状態になる。適当に知識を減らさないと不健康である。

(出典 外山滋比古『考える力 新しい自分を創る』海竜社による)

問一 線 a・b の意味をそれぞれ五字以内で答えなさい。

問二  A・B に入る言葉として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 頭      イ 目      ウ 心      エ 足      オ 耳      カ 手

問三 線 1 「いつ思い出してもさわやかだ」とありますが、何に対してそう感じたのですか。その説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 大変よい経験となる長距離走を、サッカーのかわりにとりいれることになったこと。

イ 苦しい長距離走なのに校長先生のせいで、ほかの先生も走らないといけなくなったこと。

ウ 長距離走では暴れものでも先生を追いつくときは、会釈をして礼儀正しさを示すこと。

エ 苦しい走りのなかで、人生における有益な訓練をして身体をきたえることができたこと。

オ 興味をあまり持てない教室の授業のなかで、生涯忘れられない文章との出会いがあったこと。

問四  2 に入る言葉を、二十字以内で答えなさい。(句読点等記号も一字に数える。以下の問いも同じ。)

問五 線 3 「科学者とあたま」ではないのか」とありますが、その理由として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 成績の善し悪しで使い分けるから。

イ ひらがなと漢字では意味が違ふから。

ウ 田舎では使い分けるのがふつうだから。

エ 寺田寅彦には独特の感性があつたから。

オ 漢字には特別な意味が込められているから。

問六  4 に入る言葉を、本文中から五字で抜き出しなさい。

問七 線 5 「頭の悪い人が頭のいい人に勝つことがある」とありますが、なぜですか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 頭の悪いことに自覚のある人は、その弱点をうまく利用することができるから。

イ 富士山に実際登ってみないとその苦勞がわからないのが、頭の悪い人だから。

ウ 頭の悪い人はどのような困難があつても、それを乗り越える精神力があるから。

エ 裾野から富士山の頂上を眺めるだけでも、じゅうぶんに登った気にはなれるから。

オ 頭のいい人が見落としがちなことにも、頭の悪い人は気がつくことがあるから。

問八  6 には、――線6と反対の意味の言葉が入ります。次の語群の中から選び、ひらがなを漢字に直して答えなさい。

語群 「 いとてき ひかんてき いんしょうてき らくてんてき うんめいてき 」

問九 ―線7「ひどく反発を覚えた」とありますが、なぜですか。四十字以内で説明しなさい。

問十  ア～オには「抽象」か「具体」が入ります。「抽象」が入るものをすべて記号で答えなさい。

二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(設問の都合上、一部省略した部分があります。)

車のドアを開けた冷端寒さに首を凍めた。助手席のマフラーを首に巻き車を降りる。

駐車場には二十台ぐらいの車が停まっている。

午後六時半を過ぎていて、辺りは  A 暗くなっていた。

テニスクールに恵を迎えに来るのは二度目だった。普段は太一がしているのだが、昨日から風邪をひいて寝込んでいるため、今日は私が迎えに来た。

駐車場の向こうにあるクラブハウスの白い外壁には灯りが当てられていて、闇の中でそこだけ輝いている。

私はコートのポケットに両手を差し入れて駐車場を突っ切り、クラブハウスのドアを押し開けた。フロントで受話器を耳に当てている女性スタッフに目礼をして通り過ぎた。そのままロビーへ向かう。すぐに大勢の保護者たちがロビーの長椅子に座っているのが見えた。

ロビーの端に立った時、右手から子どもたちの賑やかな声が聞こえて来た。

レッスンを終えた子どもたちがロビーに現れたのだ。

私はロビーの中央付近まで進み恵を探す。でも恵を見つけれない。ふと怒越しにテニスコートへ目を向けた。

恵はまだコートにいた。山本基行コーチとなにか話をしている。他にも二人の男の子が  B コートに残っていた。なにを話しているのかしら。

少しすると恵が走り出した。コートのベースラインに立つとラケットを構えた。

向かいのコートには山本コーチがいて、その足元には黒い箱があつた。そこにはたくさんのテニスボールが入っている。

あれは自動ボール出し機じゃないだろうか。

すぐにその機械からテニスボールが一個飛び出した。ネットを越え恵のいるコートに落ちる。

ワンバウンドしたそのボールを、恵がラケットで打ち返した。

恵が自主練習するコートの隣で二人の男の子が、それぞれ同じように自動ボール出し機から飛び出して来るボールを打ち返す練習を始めた。

5

10

15

20

私はスマホに C を落とし、いくつかのメールに返信をする。

十五分が経った。

恵と男の子たちが練習を止めて、ボール拾いを開始する。

二人の男の子たちは自動ボール出し機にボールを戻すと、それを両手で押しながら窓の前を通り過ぎた。

一人残った恵がコートに向かって走り出した。そしてベースラインに立つとすぐにラケットを構える。

機械からボールが飛んだ。

恵がそれを打ち返した。

恵はまだ練習を続ける気だと知った私は、また腕時計に視線を向ける。

ドアが開き二人の男の子たちがロビーに入ってきた。二人とも真っ赤な顔をしていて汗を滴らせている。

それから二人の男の子たちはロッカールームへと姿を消した。

<sup>a</sup> 手持ち無沙汰の私は再びスマホに触れて、今度は書類を開く。

それはアンケートの結果をまとめたものだった。業者<sup>い</sup>に依頼して、ワタナベベーカーリーに対するイメージやパンへの評価などをコメントして貰った。「不味くはないけど癖になるような味でもない」「フツー」「毎日食べようとは思わない」「盛り過ぎ」「なにもかも大袈裟で飽きる」「ゲーキつばい」「値段が高い」……そうした言葉を拾い読みする。

<sup>1</sup> 突然冷気が足元をすっと走り抜けていった。誰かがドアを開けてロビーから外へ出たのだろう。

私は腕を組んで顔を前に向けた。

機械からボールが放たれた。

恵がラケットを引きながら右方向へ走る。そして右手を思いっきり伸ばした。

でも追いつかなくてボールは後ろの金網<sup>かみみ</sup>に当たる。

恵は顔を響めてすぐにセンターマークに走り戻る。

今度のボールは左の前の方に落ちた。

恵は猛スピードで前方に走る。そしてバックハンドで打ち返したが、それはネットを越えなかった。すぐに恵はセンターマーク

に向かって走る。

戻り切らないうちに次のボールが右方向に飛んだ。

恵は必死で追いかける。そしてラケットを振った。

フレームに当たったボールは天高く飛び上がる。

恵は思いっきり悔しそうな顔をした。

私はゆっくり腕を解く。

機械から次のボールが飛び出た。ボールは右方向に飛んでいく。

恵はラケットを引きながら走り、予想軌道の位置で止まると構えた。そしてラケットを素早く振った。

ボールは力強いスピードでネットを越えて、相手コートの隅に落ちた。

恵がセンターマークの位置でラケットを両手で握り、次の準備に入る。恵の D は上下していて口が開いている。その顔は上気していた。

<sup>2</sup> 私は組んでいた足を解いて前屈みになった。

機械から出たボールがふわっと浮いた。

恵は猛ダッシュをして前に走る。

ボールはネットを越えてすぐのところに落ちた。

恵はラケットを思いっきり前に伸ばして走り続ける。あと少しでボールに届くと思った時、足がもつれた。右膝<sup>ひざ</sup>をコートに打ち付けてしまう。

<sup>b</sup> 思わず私は立ち上がって窓に近付いた。

恵はすぐに起き上がった。そして走ってセンターマークに向かう。くるとターンして正面に向くと、またラケットを両手で握って身構えた。

<sup>3</sup> 私の目に涙が溢れていく。声が出そうになって咄嗟に口元を手で押さえた。

恵が一生懸命練習している……それだけで胸の奥が熱くなっている。先月の試合で準優勝だったのが悔しかったの？ バイオリ

25

30

35

40

45

50

55

60

65



ンの発表会の時は、失敗したら途中で止めてしまったのにな。止めるのではなく、たくさん練習すると決めたあなたが誇らしいわ。いつの間にかちゃんとあなたは成長していて……私は仕事はつかりだったから、あなたの成長の途中を見逃してしまったのかしら。勿体ないことをしたわね。母親のなによりの喜びのはずだもの。仕事に注ぐ時間は長かつたけれど……今のあなたのように「4 達だったかしら。そこに自分の都合が入っていたのかも。パパは時間が経つと、楽しんで作ったパンと苦勞して作ったパンの差が出ると言っていた——。お客さんに誠実じゃなかったから、毎日食べようとは思わないなんて言われてしまうようになったのかし

70

らね。自分が恥ずかしくてどこかに消えてしまいたい気持ちと、あなたのことを大きな声で自慢したい気持ちとが交り合っていて、ちょっと混乱してるわ。

「あの、大丈夫ですか？」と声を掛けられて振り返ると山本コーチがいた。

「恵ちゃんのお母さんでしたよね？」と山本コーチが確認してきた。

「はい、そうです。いつもお世話になっております」頭を下げる。「大丈夫かというのは私のことですよね。泣いているからですよ。すみません。娘が一生懸命練習しているのを見ていたら、感動してしまつて。親バカで申し訳ありません」

75

「いやいや。そうでしたか。それならわかります。頑張ってる姿というのは圧倒的な力を持ってますからね。恵ちゃんは頑張ってますよ。先月の試合の優勝決定戦で負けた後、すぐに僕のところに來たんです。僕は準優勝おめでとうと言ったんですが、恵ちゃんは練習したら勝てるようになりますかと聞いてきたんですよ。勝ちたいのと聞いたら頷いたんです。だから練習したら勝てる確率は高くなるよと答えました。それからはあんな調子です。身体を壊すからもう今日は終わりだと僕が止めるまで、5 ずっと練習しています。恵ちゃんはガッツありますよ」

80

「有り難うございます」また溢れて來た涙を指で拭つた。

大人たちがぞろぞろとロビーを出て行き、山本コーチもそれに続く。すぐに恵の隣のコートで女性コーチのレッスンが始まつた。十分経って機械からのボールの放出が止まつた。山本コーチが恵に何か話し掛け、二人でボール拾いを始めた。

そうしてボールを満載した自動ボール出し機を恵が押す。窓の前を恵が通る。

85

私は窓の向こうの恵を追うようにして右方向へ歩いた。ドアを開けて外に出る。たちまち寒気に包まれて全身が震えた。

(出典 桂望実『オーディションから逃げられない』幻冬舎による)

問一 〰線 a 「手持ち無沙汰」の意味として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 退屈である      イ 多忙である      ウ 怒りを抑えている      エ 夢中になっている  
オ 考え事をしている

問二 〰線 b 「思わず」・c 「咄嗟に」とありますが、Bは反対の意味の言葉を、Cは同じ意味の言葉を次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

- ア すぐに      イ ゆつくりと      ウ 入念に      エ 適当に      オ わざと      カ 十分に

問三 ☐ A・Bにあてはまる言葉の組み合わせとして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア AⅡきつかり      BⅡやや      イ AⅡゆつくり      BⅡぶと  
ウ AⅡじつくり      BⅡすぐ      エ AⅡすつかり      BⅡまだ  
オ AⅡあつさり      BⅡもう

問四 ☐ C・Dに入る体の部位として最も適当なものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

- ア 頭      イ 目      ウ 肩      エ 腰      オ 手      カ 足

問五 〰線 1 「突然冷気が足元をすつと走り抜けていった」とありますが、このときの「私」の様子について説明した文として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア コメントが自分にとってプラスになる内容だと感じて、胸を躍らせている様子。  
イ 店の評価よりもパンの味について厳しく言われたことに、悔しがつている様子。  
ウ 店やパンに対しての評価が低かったことに衝撃を受け、言葉を失っている様子。  
エ 店に対しての印象が良くないとわかり、改善に向けて前向きになっている様子。  
オ アンケートの結果が良くなかったことに対して腹を立て、いらついている様子。

問六 — 線2「私は組んでいた足を解いて前屈みになった」とありますが、このときの「私」の気持ちについて説明した文として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 娘の姿から目が離せなくなり思わず見入ってしまう気持ち。
- イ 娘と一緒にあって失敗したプレーを悔しく思う気持ち。
- ウ 失敗ばかりでなかなか上達しない娘の様子にいら立つ気持ち。
- エ 厳しい練習に耐え上達していく娘のことを頼もしく思う気持ち。
- オ 優勝できることを期待してひたすら娘の勝利を祈る気持ち。

問七 — 線3「涙が溢れていく」とありますが、その理由を四十字以内で説明しなさい。(句読点等記号も一字に数える。以下の問いも同じ。)

問八 — 線4「自分が恥ずかしくてどこかに消えてしまいたい気持ち」とありますが、どうして恥ずかしく思っているのですか。その理由として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 毎日パンを作ることをおこなっていたから。
- イ 恵の成長を今まで見たことがなかったから。
- ウ 自分の都合の良いことばかり言っていたから。
- エ お客さんに対して誠実でないと気付いたから。
- オ 練習を見て泣くような親バカだったから。

問九 — 線5「ずっと練習してます」とありますが、そのきっかけは何ですか。「くく」とに響くように、本文中から十九字で抜き出しなさい。

問十 本文の内容として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 山本コーチは、恵の優勝へのこだわりにあきれているが、練習には協力してくれている。
- イ 「私」はバイオリンを止めた恵に対して、テニスはやめないうように説得するつもりだった。
- ウ 「私」は優勝を目指して練習にはげんでいる恵を、心から応援できないことに悩んでいる。
- エ 恵はレッスンを終えてからも、二人の男の子と一緒に、三人で最後まで自主練習を続けた。
- オ 恵はさらに勝てるようになりたいと思い、コーチに制止されるまで練習するようになった。



三 次の各問いに答えなさい。

問一 次の――線の部分のカタカナを漢字に直しなさい。

- ① シカ<sup>カ</sup>検<sup>ケン</sup>診<sup>シン</sup>を受けよう。
- ② 布<sup>フ</sup>がヤ<sup>ヤ</sup>ア<sup>ア</sup>れてしまった。
- ③ 敵<sup>テキ</sup>とタイ<sup>タイ</sup>トウ<sup>トウ</sup>にわたりあう。
- ④ リヨ<sup>リヨ</sup>ウ<sup>ウ</sup>リ<sup>リ</sup>を運<sup>ウン</sup>ぶ。
- ⑤ 事件<sup>ジケン</sup>のシン<sup>シン</sup>ソウ<sup>ソウ</sup>を話<sup>ワ</sup>し出<sup>デ</sup>す。

問二 次の――線の部分の漢字の読みをひらがなで答えなさい。

- ① 筆<sup>フデ</sup>順<sup>ジュン</sup>を覚<sup>オモ</sup>える。
- ② 強<sup>ツヨク</sup>い口<sup>クチ</sup>調<sup>テウ</sup>で言<sup>コト</sup>葉<sup>ハ</sup>を吐<sup>ハク</sup>き捨<sup>ス</sup>てた。
- ③ 一<sup>ヒト</sup>番<sup>バン</sup>早<sup>ハヤ</sup>くに手<sup>テ</sup>を挙<sup>アゲ</sup>げた。
- ④ 今日<sup>コンニチ</sup>の試<sup>シ</sup>合<sup>カ</sup>は白<sup>ハク</sup>熱<sup>ネツ</sup>してゐる。
- ⑤ 田<sup>イナ</sup>の直<sup>ナカ</sup>径<sup>キョウ</sup>を測<sup>ハカ</sup>る。

問三 次の語句が最も正しく使われている文をそれぞれあとから選び、記号で答えなさい。

- |            |   |
|------------|---|
| ① 水に流す     | <div style="display: inline-block; vertical-align: middle;">           ア 新規事業から水に流す。<br/>           イ 過去のいざこざを水に流す。<br/>           ウ 試合が水に流す展開になった。<br/>           エ せつかくの苦勞を水に流す。<br/>           オ 水に流すように静かだ。         </div>  |
| ② 目が回る     | <div style="display: inline-block; vertical-align: middle;">           ア いくら待っても来ないので目が回る。<br/>           イ 新しい洋服を買ってもらえず目が回る。<br/>           ウ 仕事が多くて終わりが見えず目が回る。<br/>           エ 先生に目が回るほどしかられた。<br/>           オ ゴミのポイ捨ては目が回るほどだ。         </div>                            |
| ③ 合いの手を入れる | <div style="display: inline-block; vertical-align: middle;">           ア 演奏が終わった後に合いの手を入れた。<br/>           イ 会話に合いの手を入れて話を盛り上げた。<br/>           ウ 合いの手を入れて危険を知らせた。<br/>           エ 言い争っていたので合いの手を入れた。<br/>           オ 突<sup>トウ</sup>然<sup>ゼン</sup>の雨に合いの手を入れた。         </div> |

問四 次の部分に共通の部首を加えて一字の漢字を作ります。加える部首名をひらがなで答えなさい。

- ① 方 余 完 皆 章
- ② 刀 斤 反 米 車

問一	a										b									
問二	A					B					問三									
問四																				
問五						問六														
問七						問八														
問九																				
問十																				

問一		問二	b		c	
問三		問四	C		D	
問五		問六				
問七						
問八						
問九						
問十						

問一	①		②		③		④		⑤	
問二	①		②		③		④		⑤	
問三	①		②		③		問四			
	①		②		③		①		②	

名前には書かないように

受験番号				
------	--	--	--	--

右につめて書いて下さい